

- 問1 鎌倉時代、源頼朝が全国に設置した「守護」と「地頭」の役割について、正しい説明はどれか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
- 守護は江戸幕府が藩を監視するために設置し、地頭はキリスト教の取り締まりを主な任務とした。
 - 守護は年貢の徴収や土地の管理を専門に行い、地頭は幕府の最高評議機関として政治の指針を決定した。
 - 守護は海外との貿易を管理するために港に置かれ、地頭は全国の戸籍を作成するために村ごとに置かれた。
 - 守護は国ごとに置かれて軍事・警察を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。
- 問2 奈良の寺社に関連する歴史的背景について述べた次の文のうち、内容が正しいものを1つ選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
- 奈良時代、聖徳太子は鑑真を招いて東大寺を建立させ、鎮護国家の象徴とした。
 - 室町時代の足利義満は、東大寺南大門の再建を通じて、武家と公家の文化を融合させた。
 - 平安時代後期に院政を行った白河上皇は、奈良の春日大社への参詣を繰り返した。
 - 鎌倉時代、武士の力を示すために運慶が唐招提寺に金剛力士像を安置した。
- 問3 1232年、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、日本で最初の武家法を制定しました。この法令を制定した主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 新潟県公立入試 類似)
- 足利尊氏が新しい政治の方針を示し、京都の公家社会のルールを武士に強制するため
 - 聖徳太子が役人の心得を示したように、仏教の教えを政治の基本に据えるため
 - 土地をめぐる争いなどに対し、武士の慣習に基づいた公平な裁判の基準を定めるため
 - 江戸幕府が全国の大名を統制し、許可なく城を修繕することを禁止するため
- 問4 日本の歴史を時系列で整理した際、平安時代の終わりにあたる12世紀末から、室町時代が始まる前の14世紀前半までにあたる、日本初の本格的な武家政権が成立していた時代を何と呼ぶか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
- 奈良時代
 - 鎌倉時代
 - 江戸時代
 - 室町時代
- 問5 鎌倉時代に東大寺南大門が再建された背景や、その文化的な意義について述べた文として正しいものはどれですか。 (2022年 大分県公立入試 類似)
- 国風文化の伝統を守るため、平安時代の建築様式を忠実に再現することを目指した。
 - 大陸との貿易を独占した足利義満が、自らの権威を誇示するために建立した。
 - 浄土信仰が広まる中で、貴族たちが死後の安楽を祈願して私財を投じ制作させた。
 - 平氏の焼き討ちにあった東大寺を、武士の力強さを象徴する場として復興させた。
- 問6 13世紀後半、元との戦い(元寇)での恩賞が不十分だったことや、貨幣経済の浸透によって、多くの御家人が領地を質に入れたり売却したりして生活が困窮しました。こうした御家人を救済することを目的として、1297年に鎌倉幕府が出した法令を何といいますか。 (2025年 鹿児島県公立入試 類似)
- 武家諸法度
 - 御成敗式目
 - 永仁の徳政令
 - 公事方御定書
- 問7 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が制定した、武士社会の慣習に基づいて裁判の基準を明確にした法典の名称を答えなさい。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- 十七条の憲法
 - 武家諸法度
 - 御成敗式目
 - 養老律令
- 問8 ある御家人の父親が亡くなった際、その領地を5人の兄弟姉妹で均等に分け合って引き継ぐ状況を想定します。このような相続の形態が繰り返された結果、鎌倉幕府の社会で起きた現象として最も適切なものはどれですか。 (2020年 長野県公立入試 類似)
- 一族の人数が増えることで開墾が進み、全国的な農地面積が飛躍的に拡大する要因となった。
 - 領地の売買が禁じられていたため、土地を失う武士は現れず、幕府の統治は長期にわたって安定した。
 - 女性にも相続権があったため、女性地頭が急増し、幕府の要職の多くを女性が占めるようになった。
 - 個々の武士が所有する領地が狭くなり、武士としての義務を果たすための経済力が不足した。
- 問9 1221年に起きた承久の乱の結果、日本の政治体制はどのように変化しましたか。その背景と影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 高知県公立入試 類似)
- 武士の間で内乱が激化し、鎌倉幕府が滅亡して建武の新政が始まった。
 - 朝廷が軍事を強化し、幕府から政治の実権を完全に取り戻した。
 - 幕府が朝廷を監視する体制が整い、幕府の支配力が西日本にまで大きく広がった。
 - 貴族が政治の中心に再び咲き、執権政治が終わりを告げた。
- 問10 鎌倉時代に栄西が伝えた「臨済宗」や、道元が伝えた「曹洞宗」といった禅宗が、当時の武士たちの間で広く受け入れられた理由として最も適切な説明はどれですか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
- 厳しい修行や座禅を通じて、自分自身の精神を鍛え上げる教えが、武士の気風に適していたから。
 - 法華経の教えを信じることで、国家の安泰と個人の救済を同時に実現できると考えたから。
 - 「南無阿弥陀仏」と唱えるだけで誰もが救われるという教えが、文字の読めない武士にとって容易だったから。
 - 各地を巡りながら踊りを通じて仏を供養する形式が、領地を移動する武士の生活に合っていたから。
- 問11 鎌倉時代の社会制度において、地頭が行った活動の説明として最も適切なものはどれですか。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
- 荘園や公領の管理を行い、年貢の徴収や警察活動を担当した。
 - 徳政令を求める土一揆を鎮めるため、村の自治組織を指導した。
 - 国ごとに置かれ、軍事や警察の職務を通じて国内の武士を統制した。
 - 備中鍬などの農具を普及させ、新田開発を積極的に進めた。
- 問12 鎌倉時代の文化は、武士の力強さや民衆への宗教の普及を背景に、現実を直視する写実的な傾向が強まりました。この時期の文学作品である『方丈記』の説明として、当時の社会状況と関連付けたものとして最も適切な記述はどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- 室町幕府の保護を受け、観阿弥・世阿弥親子が猿楽を芸術性の高い舞台芸術へと高めた。
 - 千利休が確立した、簡素で静かな精神を重んじる「わび茶」の作法について記した。
 - 相次ぐ戦乱や飢饉による社会不安を背景に、世の中の無常さを簡潔な文章で記した。
 - 国風文化の影響を受け、かな文字を用いて貴族の華やかな宮廷生活を情緒的に記した。
- 問13 承久の乱の後、安芸国(現在の広島県)などの西日本諸国において、相模国(神奈川県)出身の香川氏や小早川氏、武蔵国(埼玉県・東京都)出身の熊谷氏や金子氏といった一族が地頭に任命されています。このような事実は、当時の社会の変化についてどのようなことを示していますか。 (2018年 愛媛県公立入試 類似)
- 朝廷が東日本の武士を懐柔するために、西日本の肥沃な土地を自発的に譲り渡したこと。
 - 西日本の伝統的な武士団が力を強め、東日本の武士を圧倒して幕府の要職を占めたこと。
 - 幕府の基盤である東日本の武士が西日本の領地へ進出し、幕府の勢力圏が拡大したこと。
 - 地頭の権限が徴税業務のみに限定され、東日本の武士が西日本に移住することを禁じられたこと。